エッセイ 千字文

異文化適応能力と女性

山崎 正和

サントリー文化財団に研究フェローという制度があって、その人たちの研究発表会で若い女性人類学者の話を聞いたことがある。インドの田舎に古い被差別民の暮らす村があるのだが、彼女はその中でもさらに差別される女性に混じって、長らく体験調査をおこなったのだという。その勇気そのものが私には驚異だったが、彼女の淡々とした冷静そのものの話しぶりには圧倒された。被差別の極致にある人々と同じ生活を体験し、告発するのでも慨嘆するのでもなく、客観的な科学的観察に徹するというのはただごとではない。

思い出したのは、すでに有名人だが、アフリカの民族楽器ニアティティを習得し、これを世界に広めた日本人女性アニャンゴさんである。ニアティティはアフリカでもすでに忘れかけられていた弦楽器で、極端に前近代的な一少数部族の男性にのみ継承される音楽であった。彼女は単身、その男性優位の村に移り住み、水くみを含む女性の苦しい義務に従いながら、数年がかりで族長に訴え、ついに禁断の楽器の演奏を習うことを許された。

たちまち彼女の技量は村の男を凌ぎ、族長からアニャンゴという現地名を与えられて、今ではニアティティを世界中に紹介する活動をおこなっている。現在の彼女には、この楽器は誇るべき自分の文化であり、族長は敬うべき師匠として見えていることだろう。

随想だから論証抜きに言うのだが、異文化に対するこのような尊敬の姿勢は、とりわけ女性に顕著に見られるような気がしてならない。異文化を近代化の物差しで計らず、現状の異質性をとりあえずそのままに受け入れようという態度である。一時的であれ、異文化の価値観それ自体を受容するのだから、その生活様式への適応の努力は強まり、能力もおのずから高まるのが当然だろう。

そういえばアジアに単身で赴き、現地で起業する人にも女性が多く、その業種も現地の伝統産業を成長させたものが広く見られるという。冗談めくが、テレビの長寿番組「世界ふしぎ発見」でも、派遣されるミステリー・ハンターの多くは女性である。

歴史を振り返ると、世界中で男性よりも女性のほうが、異文化に適応する機会は圧倒的に多かった。女性は身分が高いほど外交の具に使われ、政略結婚のかたちで異国に嫁ぐことが少なくなかった。その経験が目に見えぬ遺伝子となって体内に残り、文化的な柔軟さと強靭さを生んでいる……などという妄想を抱かされるほど女性は強いのである。

プロフィール
1934年京都府生まれ。劇作家、評論家。京都大学文学部卒業。関西大学教授、大阪大学教授、東亜大学学長、サントリー文化財団副理事長、中央教育審議会会長等を歴任。戯曲作品に『世阿弥』（新潮文庫）、『オイディプス昇天』（福武書店）など。著書に『劇的なる日本人』（新潮社）、『鴎外 闘う家長』（新潮文庫）、『柔らかい個人主義の誕生』（中公文庫）。紫綬褒章、文化功労者、日本芸術院賞を受賞。

月刊 みんぱく 9月号目次

1 エッセイ 千字文
異文化適応能力と女性
山崎 正和

2 特集 コラボの力

2 新美術館×みんぱく
——座談会「イメージの力」展ができるまで
長屋 光枝、山田 由佳子
上羽 陽子、齋藤 玲子、山中 由里子

4 千家十職×みんぱく
——創造を生みだす刺激と美を追求した展示
八杉 佳穂

7 狂言×オペラ
——ジャンルの枠を打ち破る
小宮 正安

10 集めてみました世界の○○
弁当箱編
杉本 良男

12 みんぱく Information

14 文化遺産おもてうら
翻弄された地方劇——中国の秦腔
清水 拓野

16 多文化をあきなう
貴重な植生と限界地の暮らしを守る ルイボス茶のフェアトレード
池上 甲一

18 味の根っこ
ミサル
松尾 瑞穂

20 人間学のキーワード
インクルーシブデザイン
平井 康之

21 異聞逸聞
新時代のタブラ
ディアナ・ニコディノブスカ

22 制服の世界、世界の制服
宇宙服——宇宙飛行士の制服
和田 理男

24 次号予告・編集後記